

## 平成28年5月16日開催定例美祢市教育委員会会議録

開催日時 平成28年5月16日（月）午後1時30分から午後2時55分

開催場所 美祢図書館「視聴覚室」

出席委員	前田 耕次	委員長	
	秋山 信登	委員長職務代理者	
	古屋 道子	委員	
	井上 敏雄	委員	
	永富 康文	委員	5人

出席教育委員会事務局職員	金子 彰	事務局長	
	末岡 竜夫	事務局次長	
	千々松雅幸	〃	教育総務課長
	長谷川 裕	〃	学校教育課長
	古屋 敦子	〃	生涯学習スポーツ推進課長
	井上 辰巳	〃	文化財保護課長
	福屋 憲道	〃	学校教育課主幹
	石川 博之	〃	美東事務所長
	安永 一男	〃	秋芳事務所長
	田中 義和	〃	生涯学習スポーツ推進課長補佐

10人

### 開 会

#### 前田委員長

午後1時30分 委員全員の出席を確認し開会を告げ、署名委員に古屋委員、井上委員を指名する。

#### 前田委員長

前回の会議録の承認について、事前に各委員へ配布された会議録への意見、質問を求める。

全員承認

## 前田委員長

行事関係について教育長の報告を求める。

## 永富教育長

それでは前回の教育委員会議以後の主な行事について報告する。お手元の資料を見ていただければと思うが、その中から6点ほど、時系列に沿って報告する。

1点目は、4月26日に村田市長の退任式が、明くる27日に西岡市長の就任式が行われたことである。新市長からは、市民目線で市政を運営したいということで、そのためにも、市職員には力を貸してほしいことと情報を早く正確に上げてほしいことの指示があった。

2点目は、5月9日に、第1回厚狭地区へき地・複式教育振興会役員会を開催したことである。今年度の研究紀要は53号を数え、厚狭地区のへき地・複式教育に長い歴史があることがうかがえる。今年度の会員校は、厚狭地域全体で18校、内訳は宇部市が5校、山陽小野田市が1校、そして美祢市が12校で、この数は昨年度と同じである。市内の小学校17校中12校、70.6%の学校が複式学級を有しており、複式指導について教員の指導技術の向上は大きな課題になっている。テーマは、これまでと同様「小規模・複式形態を生かした授業づくり」とし、夏季研修会は、8月5日に美東センターにおいて開催され、授業公開は10月19日に川東小で実施されることになっている。教育委員の皆様も参観されたいかがか。

3点目は、5月10日に第1回公民館長会議を開催したことである。今年度の市教委の施策を伝え、また、公民館には、今年度の各館の取組について報告させた。市教委、とりわけ生涯学習スポーツ課と各公民館が相互の情報共有と行動連携を強化して、美祢市の社会教育の一層の充実に努めなければならないと思う。

4点目は、5月11日から、大嶺小学校を皮切りに学校運営支援訪問が始まったことである。委員の皆様にも御出席いただいたので、その様子はお分かりと思うが、児童は、とても元気であったし、教職員も熱心であった。ただ、美祢市が推進している「教えて考えさせる授業」づくりは、今一步の感がした。指導案に、「教えて考えさせる授業」の5段階が明示されていないということでは、「教えて考えさせる授業」の香りや臭いがあまりしないような気がした。

6月23日に市川教授の来校が予定されているが、市川教授の期待に応えられるような授業づくりになるには、もう少し頑張っていかなければならないと思っている。校長、教頭や学力向上リーダーは、「教えて考えさせる」授業づくりのリーダーシップをとって、三面騷議法による授業の検討をした成果を市川教授にお示しできるようにしなければならない。大嶺小だけではないが、市内の各校における「教えて考えさせる授業」づくりの現状、その到達点と今後の課題について、教育委員会としても学校ごとにまとめ、今後の対策と併せて学校に返していく必要があると思う。大嶺小の児童については、学年が上がるにつれ、落ち着いて、前向きに学習に取り組もうとする様子うかがえた。ただ、そのことは、いま話題の「アクティブラーニング」を意識しながら行われているのであろうか。大嶺小の授業を見られて、「教えて考えさせる授業」、あるい

は「アクティブラーニング」という観点から、この後で、教育委員の御意見を賜りたいと思う

5点目は、5月12日にMine秋吉台ジオパーク推進協議会総会を開催したことである。市長が交代したので、役員改選があり、西岡市長が新会長に就任し、従来どおりジオパーク活動を推進していくようになった。

6点目は、5月14日に美祢子ども交流塾入塾式・第1回定例会を開催したことである。今年度は、小学生25名（昨年度25名）、中学生13名（昨年度15名）、総勢38名（昨年度40名）の応募があり、全員が入塾した。第1回目の定例会は、下関在住の旅行家、西野旅峰氏から「自転車で大陸横断、世界不思議発見」と題してお話しをお聞きした。ノルウェーから南アフリカの喜望峰まで、自転車で旅行され、さらに、アラスカから南米まで、自転車で南北に地球を一周された方である。これからの1年間、さまざまな体験や講話などを通して、子どもたちがどう成長してくれるか楽しみである。

「その他」についてであるが、於福小が、昨年度に引き続き、5年連続で、山口県学校関係緑化コンクール、学校林等活動・小学校の部において最優秀賞となり、知事から直接、表彰状を受け取った。受賞後、その足で校長が市教委に報告にきた。本日配付の「美教委通信」に載せているので、お目通し願う。

以上で報告を終わる。

#### 井上委員

よく頑張っているのは分かる。変えてみれば、それなりの成果が上がってくると思う。

#### 長谷川学校教育課長

指導の徹底を図っていきたい。

#### 古屋委員

「教えて 考えさせる」授業づくりについて、教職員の意識が漠然としているのではないか。理解確認とか理解深化といったところを明確に考えていく必要があると思う。

#### 秋山委員

授業も研究されているのが、よく分かる。

#### 永富教育長

どのクラスでも、同じレベルの授業力をつけて欲しいと保護者は願っていると思う。授業力のレベルを揃えるのが、管理職の役割だと思う。教員が学び合い、授業をつくっていくという研修体制が必要だと思う。美祢市は、とてもいいレベルの授業をしていると思うが、さらにその上をいくように、「教えて 考

えさせる」というような匂いがクンクンするような授業づくりが必要だと思う。

**前田委員長**

議案第 1 号「美祢市立小学校の設置及び廃止」について説明を求める。

**千々松教育総務課長**

平成30年 3 月31日をもって、美祢市立嘉万小学校と美祢市立別府小学校を廃止し、平成30年 4 月 1 日に秋芳桂花小学校を旧秋芳北中学校の跡地に設置したので、教育委員会の承認を求める。

校名選定の経緯・理由・今後の周知方法等について説明する。

**前田委員長**

特に質疑がないことを確認し、議案第 1 号は承認される。

**前田委員長**

議案第 2 号「美祢市公民館運営審議会委員の委嘱」について説明を求める。

**古屋生涯学習スポーツ推進課長**

赤郷地区区長等の役員が決定したので、2 名の委員の委嘱について、教育委員会の承認を求める。任期は平成28年 5 月16日から平成30年 3 月31日までである。

**前田委員長**

特に質疑がないことを確認し、議案第 2 号は承認される。

**前田委員長**

議案第 3 号「美祢市教育委員会委員の辞職」についてであるが、この議案は、私の一身上に関するものである。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 6 項の規定により、当事者は議事に参与することができないので、退出する。

**秋山委員**

この議案について説明を求める。

**千々松教育総務課長**

前田委員より 5 月 13 日付けで市長あてに辞職願が提出された。平成 28 年 5 月 21 日をもって、その職を辞したいということである。この辞職について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 10 条の規定に基づき、教育委員会の同意を求める。なお前田委員の任期は、平成 30 年 5 月 21 日までである。

## 秋山委員

特に質疑がないことを確認し、議案第3号は承認される。

## 前田委員長

教育委員として6年、この間委員長として2年間、すばらしい委員、事務局職員に恵まれ、楽しく仕事をする事ができた。一身上の都合で職を辞することとなる。あらためて御礼申し上げます。

## 前田委員長

続いて、「学校図書館の役割」について協議を行う。

## 古屋委員

学校図書館の役割について考えてみたので、提案をする。

学校図書館について、根本から考えてみた。まず、学校図書館の位置づけであるが、学校図書館法第3条に、「学校図書館は、すべての学校に置かなければならない。」と規定されている。学習指導要領（総則）においても、指導計画の作成等にあたって配慮すべき事項として、「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させること。」とされている。さらに、学校図書館法では、学校図書館の運営について、附帯事項として「学校図書館は、その目的を達成するのに支障のない限度において、一般公衆に利用させることができる。」とされている。

美祢市でも、学校だけでなく、生涯を通じて読書に力を入れることとしている。美祢市の「夢プラン」には、「ひとが育つ ひとが輝く 教育の美祢」～夢・希望・誇りを持って21世紀を生き抜く人材の育成～を基本理念とし、その基本目標の一つに「生涯にわたり豊かな心と体を育む環境づくり」を掲げ、図書館活動の推進と子ども読書活動の推進を図ることとしている。

そこで、学校図書館の役割について考えてみた。文部科学省は、児童・生徒の読書センター機能及び学習情報センターの機能、教員のサポート機能、その他の機能（子どもたちの居場所の提供、家庭・地域における読書活動の支援）があるとしている。美祢市における学校図書館がこのような機能を果たしているか、大変気になる。美祢市の学校の様子を見てみると、学校図書館を利用した読書指導が大変良く行われていると思う。特に多くの学校が、チャレンジ目標に読書を掲げ、学校図書館を活用した読書指導に力を注いでいる。平成27年度を見てみると、小学校17校のうち12校がチャレンジ目標に読書を掲げている。中学校では8校のうち2校がチャレンジ目標に読書を掲げ、取り組んでいる。学校によっては、何冊読もうとか、何ページ読もうといった具体的な目標を掲げている。朝読書や小学校の中間時間を読書に充てている学校が大変多くある。また、学校ボランティア等による読み聞かせの実施、授業での利用、様々な活動を仕組みながら上手く学校図書館を利用し、子どもたちの成長に寄与しているところは、大変素晴らしいと感じる。しかし、取組の際に多少の差があるように感じる。全般的には読書に関心を持っていると思う。美祢市では、学

校図書館充実事業を行っている。この事業に取り組んだ学校では、大変成果が上がったと言っている。図書館の利用者が増えている。

事業を実施した伊佐中学校、於福小・中学校における取組の成果を説明する。

成果も上がっているが、今後の課題もある。子どもたちは学校から家に帰って、本を読む時間がないと言われる。ほとんど学校で本を読むのが全てである。学校でも読書の時間が少ない。家庭での読書の習慣化が課題である。親子読書も進めて行く必要もあると思う。また、読書の質の向上が一番の課題だと思う。ジャンルを広げる必要があると思う。量から質に読書を変えていかなければならない。学校図書館充実事業は、大きな成果もあげているので、今後も続けていきたい。広げていきたい。

学校を含めて地域住民全体の文化施設としての役割、地域のコミュニティの場としての役割を今後、一層考えていく必要がある。

萩市立明木図書館について説明する。（学校図書館と公共図書館の一本化）

秋芳北部地域統合小学校は、「地域に見守られ、地域と共に伸びゆく、夢育む学舎」を設計コンセプトにしている。コミュニティの機能が1つのエリアに集約されている。地域の人々が学校の図書館に来ることで、子どもたちとしっかり関わり、地域の人々と子どもたちがしっかりふれあいながら、地域総がかりで子どもたちを育てるといった学校になったらいいと思っている。

公共図書館が遠くてなかなか、行くことが出来ないという人がたくさんいると思うが、近くにある学校の図書館に行き、子どもたちと交流を深め、子どもたちを育てて行こうという意識が高揚していけばと思う。

## 井上委員

私の住んでいる地域では、小学校と公民館が比較的近くにある。小学校については、一般の人の利用がほとんどないと思う。一般の利用ができるということを知らないと思うし、公民館で本を借りている人が多いと思う。

手近なところに本があるといいと思う。教室の中にも図書コーナーがあって、すぐ本を手にとることができるようになっている。

ただ、公民館、図書館もあり、分散しすぎているような感じもするが、分散している方がいいのか、1箇所に集約した方がいいのか、よく分からない。今の状態は少し中途半端な感じがする。色々なジャンルの本を読んでもらうような対応ができていないような感じがする。

学校図書館に地域の人に来ていただくようにするには、本のジャンル等についても考えていかなければならない。

## 秋山委員

萩市立明木図書館の例は、これからの理想だと思う。特に学校図書館と市の図書館が一体化し、共同運営ができるようなところがすばらしい。

## 古屋委員

保護者の方や地域の方に、しっかり学校に来ていただいて、学校図書館を利

用できるようにしていくことも考えられる。

#### 秋山委員

地域の方に学校に来ていただくようにするための仕組みを考えていかなければならない。

#### 井上委員

ホールのところに図書館があるのはいいと思う。

#### 永富教育長

明木図書館は司書がいるのか。

#### 古屋委員

事務室に1人とカウンターに1人いる。学校図書も管理してもらっている。

#### 永富教育長

秋芳桂花小学校においては、大人の関心を引くような本の整備が課題である。市の図書館から貸し出しをすることもできる。

#### 前田委員長

図書館の利用者を年代別にみるとどのようになっているか。利用者の年齢構成を考えることも必要かと思う。

#### 古屋委員

学校図書館充実事業による司書が益々必要になってくると思う。

#### 前田委員長

続いて、協議・報告を各課から求める。

#### 千々松教育総務課長

教育総務課に関する事項として、次の1点について協議報告する。

##### ・東厚小、川東小、厚保小の統合について

H28.4.27川東小学校育友会長から美祢市立川東小学校再編統合に関する要望書の提出を受けた。平成29年4月1日に川東小は厚保小に統合することを要望するものである。今後下記のとおり説明会等を開催していくこととしている。

5月16日 東厚小学校学校運営協議会へ説明

5月17日 川東小学校学校運営協議会へ説明

5月23日 厚保小学校学校運営協議会へ説明

5月24日 東厚小学校区地域説明会開催

5月25日 川東小学校区地域説明会開催

今後も、美祢市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針に基づき学校の再編統合に取り組んで行く。

#### 長谷川学校教育課長

学校教育課に関する事項として次の3点について協議報告する。

- ・中学生の海外派遣について
- ・みね無銘塾について
- ・MINE GEO ENGLISH CLUBについて

中学生23名、小学生43名の応募があった。

#### 古屋生涯学習スポーツ推進課長

生涯学習スポーツ推進課に関する事項として次の1点について協議報告する。

- ・山口県立大学サテライトカレッジについて

#### 高橋文化財保護課長

文化財保護課に関する事項として次の1点について協議報告する。

- ・2016行事予定について

#### 末岡次長

世界ジオパーク推進課に関する事項として次の1点について協議報告する。

- ・ジオカフェについて

5月26日（木）18：30～ 道の駅おふく

#### 末岡次長

秋吉台科学博物館については、特になし。

#### 石川美東事務所長

美東事務所については、特になし。

#### 安永秋芳事務所長

秋芳事務所に関する事項として次の1点について協議報告する。

- ・秋芳町地方文化研究会総会後の講演について

6月12日（日）11：00～

「久坂玄瑞と妻文」

萩博物館 道迫主任学芸員

#### 永富教育長

私の任期は、5月21日までである。退任することになるので、御挨拶を申し上げます。平成21年4月1日、村田前市長から教育長を拝命し、1期目は福田前教育長の残任期間約3年2ヶ月、2期目の4年、合わせて約7年2ヶ月勤めさ



せていただいた。その間、色々なことがあったが、どうにか職務を全うできたのは、教育委員の皆様をはじめ、教育委員会事務局の皆さんのおかげであり、心から感謝申し上げます。

私の退任とともに、美祢市においても、旧来の教育委員会制度は終わり、新しい教育委員会制度に則って教育委員会が運営されることになる。新制度の下での教育長の権限は、旧来の教育委員長と教育長を兼ねたものとなり、その役割は大きくなり、御苦勞とは思いますが、それだけに新教育長の御活躍を期待するものである。

さて、私の任期中、学校教育については、大嶺中の新校舎建築、秋芳中の開校があった。秋芳北部統合小学校の開校についても、素晴らしい設計図ができあがっており、着々と準備が進んでいる。

学校の再編統合もかなり進んだ。鳳鳴・田代・桃木・下郷・本郷の5小学校の閉校、秋芳北中と秋芳南中の統合など、学校の再編統合により、地域から学びの場がなくなるということは大変残念ではあるが、学校が新しい教育方針に基づいて、新しい学校づくりに取り組まれ、大いに成果が上がることで、保護者・地域の期待に応えられるよう願っている。市教委としても学校を支援してもらいたい。

県立学校についても、県教委と連携し、桃木小の跡地に宇部総合支援学校美祢分教室を誘致できたことも嬉しかった。青嶺高校と美祢高校の統合もあったが、校名に美祢の名前を付け「美祢青嶺高校」とすることができたことも成果である。

教育内容については、東大の市川伸一教授を美祢市の「授業づくりアドバイザー」に任命し、全市をあげて「教えて考えさせる授業づくり」に取り組み、市内の授業改善を大きく進めることができた。全国学力・学習状況調査では、学力が県内でも最上位レベルへと躍進することができた。

また、国際交流に努め、台湾との交流事業の一翼を担い、中学校間の姉妹締結も行った。教師塾である「みね無銘塾」、美祢子ども交流塾、グローバル人財育成事業の一環としての美祢ジオ・イングリッシュ・クラブ、美祢ジオ・イングリッシュ・ビレッジ、英語検定受検料の補助も始めた。

今年度は、「飛びたて世界へ！」中学生海外派遣事業を開始したが、同じく新規事業の「ジオパーク学習推進事業」との2本柱で、国際的視野を持ちながら地元・地域で活動する人間、ふるさとへの誇りを持ちながら、世界で活躍する人間が育っていくことを期待している。

社会教育・文化財保護の分野では、銅山まつりや東大寺サミットの開催、県内初のジオパークの認定などがあり、様々な面で、市勢の振興に貢献できたことも嬉しく思っている。

色々あったが、一番嬉しいのは、秋芳中学校の校歌である。関係者のお陰で会心の校歌ができた。その中の歌詞に、「・・・Be up for the challenge 怖れず挑もう・・・」とあるが、この一節は、秋芳中学校の生徒のみならず、美祢市の全ての子どもたちに激励の気持ちを込めて贈りたいものである。美祢市は小さな市であるが、子どもたちには大きな夢・希望を持っていただきたい

い。内向きになるのではなく、外へ向かって攻めの姿勢で出て行ってもらいたい。

吉田松陰に「華夷弁別」という言葉がある。萩は日本の西端、辺境にあるが、ここで有為な人材を育てれば、やがて天下を奮発震動させる根拠地ともなりうる。どんな田舎でも、そこにしっかり根を下ろして、学問に励めば、そこが「華」、つまり世界の中心になることができるという意味である。

美祢市は、中山間地域にあり、人口規模も大きくない田舎のまちで、学校も小規模校が多くある。子どもたちは田舎育ちで、都市部の子どもと比べて気おくれすることもあるかと思うが、決して劣っているわけではない。学力でもスポーツでも、むしろ都市部の子どもより優れた成績をあげている。窓は世界に開きながらも、その地に割拠し、地域に深く根を下ろして、しっかり取り組めば、どこにも負けない学校づくりができるはずである。

美祢市の学校は、どの学校もかけがえのない独自の存在である。どの学校にであっても、地域や保護者と連携して取り組めば、県内一はもちろん、日本一、いや世界一の学校を創ることも可能である。そのような学校づくりに挑戦してもらいたい。美祢市は、そのような人材育成のまちになってほしい。

ともあれ、私が任期満了を迎えられたのは、皆さんのおかげである。重ねてお礼申し上げる。今後は一市民として、陰ながら美祢市教育の発展、市政の発展を声援、応援していきたい。皆様の活躍をお祈りしている。長い間、お世話になったこと、心から感謝申し上げます。

なお、古屋委員におかれても、市内の教員・校長として、また、退職後は教育委員として2期8年間、その間、教育委員長として何度もお務めいただき、お陰で美祢市の教育が大きく前進したことを感謝申し上げます。今後とも、美祢市教育のサポーターとして、よろしく願い申し上げますとともに、益々の御健康・御多幸をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

## 古屋委員

この度、教育委員を退任することになった。私は合併前と合併後、併せて8年11ヶ月教育委員を務めてきた。色々なことがあったが、今振り返ると、この間、美祢市の教育は大きく発展してきたと思う。これが一番の実感である。私も、教員として勤めているときに、先生方と一緒に力を合わせたら、子どもたちが変わり、学校が変わり、保護者が変わり、地域が変わっていった。教育はすばらしい力を持っているということを実感した経験がある。この約9年間のなかで、同じようなことを感じた。教育長や指導主事の力が大きいと思うが、その指導により校長が変わり、教員が変わり、保護者が変わり、地域が変わっていった様子を目の当たりにした。学力も目覚ましく向上してきたし、子どもたちの様子を色々な行事を通してみると、健全に学校生活を送っていると強く感じている。これも、皆さん方のお力によるものだと、感銘を受けている。これから、益々美祢市の教育が発展するよう、お祈り申し上げます。子どもたちは、一人ひとりが夢や希望を持ち、その可能性を秘めた存在だと思ってい

る。その子どもたちをしっかりと伸ばしていくことが、大人の責任であり、務めだと思っている。これからの教育委員会、美祢市教育の益々の発展をお祈り申し上げ、御礼の言葉とする。

大変お世話になり、ありがとうございました。

次回の定例教育委員会を平成28年6月24日（金）午後1時30分から美祢図書館「視聴覚室」において開催する旨を告げる。

午後2時55分委員会の終了を告げる。

平成28年5月16日